刃物語
2014 The full complement version
ADLUT ONLY

たったったったっ

おーい
先輩〜！

だだだっ！

スタッ

ずいいわっ！

スパッッすらも
履いてねえ

ドラ

どうした？
まるで昼間に幽霊でも
見たような顔色じゃないか
アララギ先輩
僕が見たのは
ノーパンで嬉しそうに
走り跳ねる
可哀想な後輩の姿だ

ぷりん

数々の修羅場を
エロ魂一つで
乗り切ってこられた
先輩とも思えぬ
狼狽ぶりだな

呆れてるんだ
あとエロ魂とか
そんな響きのいい
下劣な魂は持ってない

しょぼくれた背中が
とぼとぼ帰る姿を見て
これはもう元気づけて
差し上げようと―

ふるふる

侮蔑交じりの
激励は
やめろ！

―慌ててスパッツを
脱いで走って
追いかけて来て
みたのだが！

ゴミッ

その意気は良いが
何故に脱いだ
スパッツを

ガッ

これでは物足りぬと？
さすが私のエロ師匠
次こそは期待に応えて
全裸で追いかけるぞ

あっはは

おまわりさーん
こいつを早めに
補導してやって下さい

そんな大きな声は
通学路のご近所に
迷惑ではないか
先輩

おまえは
存在と行為が
迷惑そのもの
なんだよ

どよ〜ん

……
じーっ
な、なに!!何!?
なんだよ忍なんか文句あるか!
さすがのわしもその有様を見て感嘆の音を上げる程人間が…いや怪異が出来ておらん
じーっ
言ってくれればいつでもお相手仕るがの
黙れ偽幼女僕はロリコンじゃない
ふふふ
ふむ…
知り合い似の娘の写真がお気に入りとはよい趣味じゃの
た、たまたま買った雑誌だ気のせいだ僕は知らん
変態

このページにも
開き癖がついて
おるようじゃの
h
さては昼間の娘の
生股間でも
思い返して
おったのかのあ
冷静な推理で
分析すんなよ
どこの
特命係だよ
はぁ!?
♪ちゃ～ちゃらちゃらん
相　棒
(関話休題)
うーむ
さすが
鷹青ノ之乃先生の新刊
思わず目を
背けたくなるような
鬼畜BLじゃないか
ペラッ
ドキドキ

指先が肌に触れただけで
体に電気が走ったようだ
はぁ
くゅっ
はぁ
体が熱い
くちゅ
くちゅ
はぁ
はぁ
溢れだした欲情は
行き場を求めて暗闇を
往く蛇のように執拗に
私を苛む
この手……

こうなってから
この手を使ったことは無いな

丈くて毛深い…
まるで男性のシンボル
そのもののように

こんな気分の時
いつも脳裏に
浮かぶのは…

先　輩　……

カンバラ
さあセックスをしましょう
こっちへ来なさい

……戦場ヶ原先輩
そのお間抜けなポーズ
気に入ってます？

欲求を満たすには
私の想像力が創造性に
欠けて過ぎているようだ

センパイ……

おいエロ奴隷
とりあえず足開いて
いやらしい裂け目開門

やめてくれ
あらららららぎぎぎ
先輩いいい〜

おい、てめえ
人の名前を
オペラのように
歌い上げてんじゃねえ

獣だ！
暴虐と陵辱の限りを
付くさんとする
獣の目だぁぁ

!!ヤぁぁ

グリ
グリ

この俺様の
エロ奴隷に
なるんだろう
いやらしい
メス豚め雌ブタめ

もぐ
もぐ

『裂け裂け
ここには俺と
お前しかいない
お前の体に淫楽の烙印を
押し捲ってやるぜえ
うへへへへへ』

おや
忍ちゃんじゃないか

少しは驚けよ
つまらん

どうしたんだい
こんな時間に

主様の手淫を
覗いておったら
追い出されたのじゃ

『幼女の目前で自慰行為とは極めつけの変態だな』
『お前が言うな』

わが主様の名を呼びながら
いったいどういう妄想に
耽っておったことやら

いやあ

照れるな
褒めてはおらん

親しき仲にも
裸の付き合いだぞ

寄るな触るな
食ってやろうか！

裸の付き合いと言えば風呂だ

カコーン

純和風の造りかヒノキの香りが芳しいわい

アララギ先輩の家のはどんな風呂なんだい

うむ、この作品の一番の謎はあの浴室の構造と広さだと思うぞ

ああお安い御用だ

悪いが背中を流してくれんかの

思わず吸い付きたくなるような白く透き通った肌だ

なんじゃくすぐったいのぉ

ふふふ触れてもいいよなああいいに決まってるさ女の子同士だもの！

血迷うでないこのご時勢に！

でえええい！

攻められっぱなしじゃ我が真名が泣くわ！
望み通り人として味わえる快楽の極みをお前の体に刻んでやるわ
その長い名前にまさか百合の女王的な意味があったとか
キスショット
アセロラオリオン
アンダーブレード
カァッ！
ハート
パワーアップ！
絶頂に至った獲物の血の味はまた格別じゃしな

ィィィッ
本物の化け物の恐ろしさを忘れていた
愛らしい少女の姿に惑わされてしまった
ニョキッ
こんなものでも無ければ楽しめんでな
真の性奴隷に堕してやろう
それは世界で一番の怪異
怪異の中の怪異
怪異の王の戯れの姿に過ぎなかったのだ
先輩……助けてセンパイ

あぁん！

アララギセンパイ！

呼んだか
神原

ええ！？

なにを
ウラヤマスケベな
ことやってんだ忍

おお、お前様も来たか
さあさあ
一緒に交じって仲良く
睦み合おうではないか

カーッ

おとなしく
幼児に戻りやがれ！

ガーン

ここからを
期待されてるのにぃ

どうしてこの人の顔が
一番に浮かんだんだろう

迷惑かけたな
帰るわ

いや
迷惑だなんて
……

真っ先に思い浮かべるべきは
戦場ヶ原先輩である筈なのに

まあ
気の迷いだな
きっと

END

アララギくん
こっち見ないでね
見たら殺すわよ
この場合
見ないと殺されるんだろうな
きっと……

見たわね
わたしの恥ずかしい姿……
いいえ殺しはしないわ
殺しはね
うふふふふふふふふふふふ
いいんだ
そんなお前に惚れたんだ

世界の終焉に立ち会ったのが
吸血鬼の成り損ないと吸血鬼の
成れの果てだったというのは
なにかの因果なのだろうか
……どうして
神なんだ
構わぬ
誰に憚ると言うのじゃ
我が主様よ
空虚な光景が生んだ儚な解放感
そういう僕の気分が
リンクされてる彼女に
伝播したのだろうか

なんの感情も挿かぬまま
涙一つ流せない僕はやはり
既に人外の物だったのかもしれない

わしには見慣れた
風景じゃ

カーン

また
夜が来るのう

魔力を得た忍の肢体が
伸びやかに成長を遂げる

透明な肌が柔らかく
張りつめた弦のような
横面を描く様を
目の当たりにし
どうした
わしが怖いか
我が主様よ
僕はごく自然に
美を結実させた
化け物に欲情していた

人と肌を交えるのは何年ぶりかの

子でも孕めば少しは空虚な気分も埋めまろうか

違う…
僕は
世が果てて
誰に遠慮が
あるというのじゃ
わしは本来、無じゃ空じゃ
観るものが求めるままの姿を映し出す
それを望もうが望むまいが
ビクッ
ここは正直じゃ

わしは人がその存在を
求めたからここにおる
わしが実在するならそれは
実在を望む者がおるからじゃ

そう望んでおるのは
お前様自身じゃ

ふっ

くいっ!

あっ

痺れるのぉ

人の世の影に棲み
その血を身を啜り
命永らえた身じゃ
なのに何故じゃ
改めて死を目前としてこうも
心躍るのは何所縁か
この世が滅せば
我れら怪異の身
も滅ぶは必定
はぁ
くちゅ
くちゅ
はぁ
知ってるぅ

迸る快楽の熱情とは逆に
僕の感情は醒めきっている
死と生はその境界が
近づくほど命を繋がんと
燃え盛るものらしい
わしは今
それを実感しておる
はあ
僕はとっくに人外のものに
堕ちているのだ

最愛の女を敬愛する友を
家族を犯し
しかも果てること無く
無人の廃虚の中、
人で無いものと
交じり続けている

これこそが
生命の実感と
いうものじゃろうな

世界が滅んで
初めてわしがその境地に
達したということじゃ

バッドエンドじゃ

買物語

高瀬乃々

我が主様よ
ミスドの百円セールが
今日からじゃ
ああ、新聞に広告が
入っていたか
ドーナツ
100

これは
行かねばならぬのう
行かねばならぬのう
それ
それ
うるせーなァ　もう！

なんと！今日は
牛肉豚肉全品半額！
野菜も安いぞ。我が主様よ
スーパーの
チラシまで
チェック
してんじゃ
ねぇ！
チラシ

ほぉ、そこの土地は
一千万か。
わしらの新たな住まいに
相応しいのう
取りあえず
十五坪の土地に
城は建たねぇゾ
ドーン

せんばた楼個人誌
発行★ 2014年8月17日
執筆★せんばた楼
協力★高瀬乃々
印刷★株式会社ポプルス

連絡先★ senbata@mbh.nifty.com